

太田 裕先生を偲んで

清野 純史

●京都大学名誉教授／前日本地震工学会会長



写真1 人間被害に関する研究会での趣旨説明(2011)

日本地震工学会の名誉会員でもあり、北海道大学工学部教授、東京大学地震研究所教授、山口大学工学部教授、愛知淑徳大学現代社会学研究科教授等を歴任されました太田 裕先生が令和5年2月にご逝去されました。ここに謹んで太田先生のご冥福をお祈り申し上げます。

太田先生は、昭和38年名古屋大学大学院理学研究科博士課程を修了後、東京大学地震研究所助手、助教授を経て昭和48年北海道大学工学部教授、平成元年東京大学地震研究所教授に転出され、平成7年山口大学教授を経て、平成10年から22年まで愛知淑徳大学の教授を務められました。

先生のご研究は、地震学から地震工学、地震防災まで多岐にわたり、全ての分野においてパイオニア的な研究を行い、斯学の発展とその国際展開に大きく貢献されました。特に、地盤の揺れを常時微動による実験的方法と震源破壊過程理論による理論的方法から評価する方法を提案するとともに、「太田方式」と呼ばれるアンケートによる震度調査法を開発する等、入力としての地震動評価に関する研究を推進されました。また、川崎市で運用が開始されたリアルタイム被害予測情報システムなどの地震被害の迅速把握と処理システ

ムの開発に関する研究は、その後のリアルタイム地震防災研究の礎となりました。さらに、国際的な活動としては強震観測も不十分な状況にあった発展途上国における地震防災研究センターの設立支援などを通じて、国際的研究者ネットワークの構築や若手研究者の育成を図られました。

私は平成5年に山口大学工学部に赴任し、平成7年から2年間太田先生から薫陶を賜りました。地震動の入力分布評価の一環として、震度階を短周期・中周期・長周期の3つに分け、それぞれの震度の算出式を提示する組合せ震度を提案したのも、太田先生との共同研究でした。また、先生がリーダーを務められていたJICAのトルコ地震防災研究プロジェクト(平成5年4月～平成11年3月)では、山口大学・三浦房紀先生による太田先生の赴任直後の歓迎会にて、私もぜひ派遣メンバーに入れてくださいと頼み込み、約半年間アンカラに滞在して、インフラの即時地震被害推定システム構築に参画させていただきました。お蔭様でとても刺激的で有意義な日々を過ごすことができました。

理学、工学、医学、社会科学など分野横断的な研究者を多く集め、研究会を通して地震防災や人間被害に至るまでご指導・ご議論してくださった太田先生が亡くられたことは残念でなりません。ただこの太田先生のご遺志を継いで、さらに継続・発展させていくことが、これからの関係者の務めだと思っています。太田先生、ありがとうございました。安らかに眠りください。



写真2 人的被害研究会メンバーとの集合写真(2004)